



▲ そろそろ、紅葉の季節でしょうか (10月30日撮影)



金光寺寺報
第221号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

真の知識にあうことは かたきがなかになおかたし

今月のことばは、『高僧和讃』源空讃で、
恩師・法然聖人を讃えられた和讃です。

親鸞聖人は二十九歳のとき、吉水の禅房に
法然聖人を訪ね、二十年間の比叡山での自力
の雑行と訣別して、本願の教えに帰入されま
した。そのときの喜びは、どれほどのもので
あったのでしょうか。もし本願を説かれた釈尊
の教えに会うことがなかったならば、そして、
その教えを承け継がれた七高僧の方々、なか
でも、本願の真実を直接教えてくださった、
善き師・法然聖人との邂逅がなかったならば、
本願の教えを聞くことも信ずる身にもなっ
ていなかったでしょう。

直接、教えを蒙った面受の師ほど、その人
を慕う心は何よりも強いものがあります。
『高僧和讃』のなか、法然聖人を除くほかの
六祖の和讃が、その教義上の功績を讃えた内
容が多いのに対して、「源空讃」二十首は教

義について述べられたものはなく、値遇の喜
びやその業績を讃えた和讃ばかりであるとい
うことも、法然聖人の善知識としての人柄を
偲ばれてのことであるといえましょう。

仏教の世界でいう善き師とは、この和讃に
「真の知識」と表現される人であり、それは
心の底に真実を見据えている人であり、した
がって、うそやごまかしが利かない、また厳
しくもあり優しくもある人です。しかも、そ
のような善き師に会うということは、単なる
「その人」に会うのではなく、「法」に裏付
けられた「その人」に会うということです。
これが世間で師と仰がれる人と、仏教の世界
で師と仰がれる人との大きな違いではないで
しょうか。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き仏事は休み
ます。よろしく申し上げます。

- ◎ 11月
15日(金) 終日
- ◎ 2020年
1月
28日(火) 終日
- ◎ 2月
17日(月) 終日

10月、次の金光寺門信徒の方がご
往生なさいました。謹んでお悔やみ申
し上げます。
2019年10月23日 満85歳
文字ヶ崎 木村 ミヨ子様

ホームページ開いています。
URL <https://konkouji.jp/>
11月2日現在アクセス数 95,107人

仏教名言ノート

人間到る処青山あり
山口県玖珂郡大島町遠崎に、妙円寺
という浄土真宗本願寺派のお寺があり
ます。

その門を入ると、境内に
男児立志出郷関 学若無成不復還
埋骨何期墳墓地 人間到处有青山
という「男児立志の詩」碑が建ってい
ます。
この有名な詩の作者は幕末の詩僧・
月性ですが、彼はこの寺の住職でした。

天保十四年、月性が二十七歳のとき、
京・大坂に師友を求めて、ここ妙円寺
を出発するときについた詩であるとい
われています。

「男子が一たび志を立てて故郷を後
にしたからは、所期の目的が貫徹でき
ない以上、二度と郷里の土を踏まない。
骨を埋めるに必ずしも古里の地を期す
べきでない。世間には何処にても青山
(墓地)がある」詩碑の立て札に書か
れていた詩の意味です。
月性は、仏教徒の立場から護国思想
に燃え、尊皇攘夷を唱え、特に海防の
必要を熱心に説いたので、人びとから
「海防僧」とよばれていました。

人間到る処青山あり
人間はシンカンとも読み、人の住む
処で、世の中のこと。青山は樹木の青々
と茂った山で、埋骨の地の意味もあり
ます。この詩は、人は大望を抱いて郷
里を離れ、大いに活躍すべきことをい
い、多くの若者が奮起するきっかけと
なりましたが、月性は安政五年、志半
ばにして四十二歳で亡くなりました。
現代の日本は貿易立国、世界中どこ
へ行っても、日本人がいるようになり
ました。
(本願寺出版社発行
辻本敬順著
「続・仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと

い不車たのトのの参はクのくのせう間の写にえ一年山し表にせい冷な
す乗便高以。電ヨ恩おりほだおあ時ま▼もよ真はる月だもた紙行ん素えと紅葉
ねりでが上寒気夕講参でほか参り期せ紅なうで早の三と紅▼にくで材込思の
。降、低にさ自コ、りし終らりまのん葉くではそで日十葉当使用途しがみっの
り齡く万対動△寒がたわでにせ冷がに見す九うす(区は山用中たながたの写
(でを、全策車又さ続▼りす活んえ、はごの重でがご体まバさで見大なだで表
す重車でにでと対きこ、。躍。込私冷ろで山す今ろ育だッせ見大なだで表
職。ねへしつおい策まれ暖幸す秋みにえに鞍長。年に祭まくてつ石かます紙
松我たのたい参うにすかかいる参はと込な岡者新は見開だにいけの見だが紙
井慢身出。てり一購。らい、のりあつみるの原間まご催であた内つな、に
がに入たはし人入古は中秋は、りてがで紅は報だろ日するだものかの今た
郎必はりだ思ま乗し賀恩の参バ恩がは欠し葉見道見を(。祇きの恩りか年た
)要辛も、っしりた東講おりイ講たこかよも頃の頃迎十例園まを講まよはい